

令和4年度釧路地域農業づくり懇談会質疑・意見交換概要

- 1 日 時 令和5年3月2日(木) PM13:00～
- 2 場 所 釧路総合振興局2階会議室
釧路市浦見2丁目
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり
- 4 開会挨拶 釧路総合振興局産業振興部農務課長 高橋 良幸
別添 挨拶概要のとおり
- 5 課題別普及活動計画の説明 釧路農業改良普及センター所長 宮崎 隆章
別添 課題別普及活動計画に基づき説明

6 懇談会(発表内容は別添資料参照)

(1) 農業法人の従業員定着のためのポイント

～従業員へのアンケート調査より～

発表者:主査(担い手) 小泉 真木

〈質疑〉

○ 合同会社 トイピリカ 松井 俊治

感想: 今回の報告内容は非常に胸に刺さるものがあった。

過去に従業員は常時2～3名雇用していたが長続きしなかった。

現在は外国人実習生を雇用しているほか、去年は、圃場作業のために1名雇用したが、トイピリカは7戸の農家(法人含む)で構成していることから、7名の雇い主がバラバラに作業の指示するため、結局昨年秋に退職してしまいその点について非常に反省している。

現在、法人では人事評価の指標がなく行えていない。参考になるものがあればいただきたい。

回答: 後日お届けする。

○ 株式会社 阿寒TMRセンター 今村 政司

感想: 当センターも構成員は皆社長なので従業員に対しての指示の仕方には問題があると思っている。飼料製造についても個々の思いがあり、調整には苦勞する部分がある。

収穫作業についても、責任者を決めて任せるようにしてはいるが、法人設立から15年経っても満足出来ることは一度もなかった気がする。

昇進については、当センターの従業員はJA阿寒の準職員としての雇用のため他のセンターさんと違うところ。

○ 有限会社 クレイランドTMRセンター 合田 徳三

感想: 平成18年に創業。過去には人の出入りは多かったが方針を変えたことにより、ここ4、5年は人が定着できている。

従業員の不満、意見をしっかり聞き、賃金、手当、子供の学校行事に対応するためのシフトなど細かく聞き、お金も面でも会社で対応することで信頼関係が築けてきていると思う。

○ 合同会社 白糠F-SEED 林 稔幸

感想: センターとして直接雇用しているのは事務職員だけで、当センターの特徴は、構成員が従業員という立場で作業を行っていることから、シフトの調整には大変苦勞している。

どうしても調整がつかない場合は外部委託も行き、さらにそこから人員を融通するといった方法もとっているが、夏の収穫作業は常時人員は不足している状況。

夏場の人員確保がこれからの課題。

○ 普及センター 小泉主査から

指示する人が沢山いて困ると言う話が多くきかれたが、今日の資料の5-3の仕事の指示をする人が何にも居て、困ることがありますか？の項目に該当する。

試験場と話した中ではマニュアル化すると、明日こういうことをこういう風にやろうというふうなようにやろうと打合せをしっかりとやるのが大事だとお話されていまして参考になればと思います。

(2) 女性農業者と創る女性のための勉強会

～しべちや町女性カレッジへの活動支援～

発表者：普及指導員 椿 文佳

〈質疑〉

○ 日本農業新聞支局 根釧通信部記者 安田 美琴

意見：以前に取材で農業女性カレッジさんの講演会に出席したが、その際に、農業改良普及センターと女性農業者の方々が雰囲気や和気藹々としていて、参加者からは「これがすごく楽しかったんだ」と行った声もきかれ、この会への参加が生きがいになっているという方が多かった。今後役員さんが代わられて新しい人が入ってきても、地域農業の活性化に繋がっていくように感じました。

また、この女性カレッジがあることで、標茶町への新規就農する人がいるときに、安心できる要素になると感じ、その存在がすごく大きいと感じたので、これからもこの活動を応援させていただきたいと思います。

○ 合同会社 トイピリカ 松井 俊治

意見：農協の会議や農業委員会など様々な会議で女性を出しなさいといった声が多く聞かれ、女性に頑張ってもらわなければならない時代がもうきているんですけども、そういう組織のための担い手作りってというか、発表されたような女性カレッジをつくれれば将来こういう人たちが、いろんなことをやってくれるのかなど、その活動はすごく評価できるとそう思いました。

トイピリカを立ち上げて3年目なんですけども様々な会合、会議はいつも男ばかり社長さんばかりが集まって行っている

女性の方々にも参加して貰いたく、声かけは行っているが参加して貰うのが難しい。他のセンターさんはどうされているか聞かせていただきたい。

○ 合同会社 白糠F-SEED 林 稔幸

意見：松井さんから話があったのですがF-SEEDとしても、最初の組織作りのときに、現状としては、各経営者男が出役して物事決めたりしてるんですけども、女性参画ということで、各農家の奥さん方を集めて組織を作ったがコロナのこともあり、また、その頃法人の計画立ち上がったのでそっちにその計画・メンバー構成とかの話し合いが中心になってしまっていて、F-SEEDとしては、その女性の組織は休止状態で上手く運用できない。

今、事例紹介していただいた標茶町さんの女性カレッジみたいな組織があれば良いですけど、地域的なことと言うと、白糠地域としては農家戸数も少なく、女性のプレミズ活動に自分の妻も参加したが、共通テーマが結構課題だと思うんですけど、どうしても若い奥さんが入ってきて、その世代間ってというか、学びたいことのテーマを絞るのが非常に難しい。

F-SEEDとしてTMRセンター中心になにか共通なテーマづくりはできないか考えたが統一見解を見いだせなかったし足並みも揃わなかった。

コロナも落ち着いてきて、法人の方も落ち着いてきたので再度F-SEEDの構成員の女性の活躍する場を構築して行きたいなと考えたところなので、今回の内容は非常の参考になった。

○ 有限会社 クレイランドTMRセンター 合田 徳三

意見：うちセンターは、件数も少ないんで、たまにお昼でも食べといてって言ってポケットマネーで集う場を作っている。、そこで、それぞれの家庭の愚痴や悩みを話してストレスを発散してきてっていうふうにはやっている。

地域にも女性部があるので、会社として若干支援するという形で年間何万円かを出していて視察や勉強会が行われているようだ。センター独自では難しいので、自分のポケットマネー行っておいでと言う風になっている。

○ 株式会社 阿寒TMRセンター 今村 政司

意見： 構成員のうち、3戸ほど女性経営者がいますので、設立当初から運営についても構成員を集めての会議にも参加して貰っている。設立当初は何年間か春に懇親会等も家族参加で行っていたが、コロナもあり、それぞれが忙しかったりといったこともありで現在は行えていない。

標茶町の事例を聞いた中では、講習会を受けられる人もそれぞれレベルが違ってくるから、テーマを設定していくのが難しいのかなと感じた。

○ 普及センター 椿普及指導員から

女性カレッジを運営するに当たって、お昼(食事会)の時間がとれなくなったと言うのが個人的には大変だなと思っている。やはりお昼の時間に質問や意見を一番活発に発言をしてくれるという印象があった。

改善策としては、オンラインを活用しながらやっていけばいいかなと思っています。

役員の方々も旦那さんからあまり外に出ないでほしいと言われて、出にくい方も居るので、皆さん、難しい思いをしながら活動してるのは現状です。

(3) スマート農業技術の推進

～地域に適したスマート農業の普及～

発表者：地域係長 市村 健

〈質疑〉

○ 合同会社 白糠F-SEED 林 稔幸

意見： 普及センター中西部支所さんにはF-SEEDの縁の下に力持ち的に運営支援していただいて感謝してる。

今回、事例紹介していただいたレポサクを昨年トイピリカさんで活用しているのを聞いて試験的に導入したのですが、今年から本格的に事業を使いながら活用していく形で、来週には勉強会を予定していますし、これを実際使ってみて、TMRセンターの圃場管理というシステムは非常に有効で普及センターさんと協力しながら進めていて色々なデータがとれるので、バンカーサイロの在庫料もですけどこのデータが自分達の考えだけでなくアドバイスをもらいながらどのように膨大なデータを有効に活用していくかということも普及センターさんに支援していただきたいなというのは、このレポサクを実際に使ってみて思っています。他にも試験的にTMRセンターとして集団で効率的にスマート農業を導入していきたいんですけど、それにあたっては色々地域先進事例だったり、こういう事例があるとかということも普及センターさんを通じて、情報提供していただけると大変助かるなと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

○ 阿寒農業協同組合 営農支援課長 斉藤 文孝

意見： 日頃から市村係長には大変お世話になっています。

スマート農業に関しては、私も釧路・阿寒の両TMRセンターに関与する中で、機械は大型化してきていて区画する圃場面積も増えてきてますので、やはりこのスマート農業農業技術は必要と考えていて、レポサク等を導入しての圃場・収穫作業管理ですとか効率性の検討を今後の課題として考えて行かなければならないと思っています。

○ 合同会社 トイピリカ 松井 俊治

意見： レポサクは計根別農協さんに視察さんに行ったときに導入していたので、これは良い機械と思わずに導入した。

導入する前は草刈り(収穫)は電話で指示受けながら、作業していたのが今はLINEで共有して作業状況は映像で全部携帯で確認できて、今草刈りはどの場所にあって、もうすぐ終わるなどか、自走ハーベスタも、もうすぐこの畑おわりそうだなって映像もすぐ見れるので、本当に便利な機械です。

TMRセンターとして、在庫管理はものすごく大事で、デントコーンは何月まであるのか、一番草は何月まであるのか、それによって何時ごろバンカーが空くので今年の収穫をどうするかという中で、在庫管理のデータが大事だった。

1年目は、圃場の面積に収穫量をかけ合わせてこのバンカーには何町(面積)入ってるから、このバンにはおおよそ何トン入っているという何時まであるなって言う管理をしていた

が、蓋を開けてみたら思っていたのと相当な狂いがあるって確認のたびに普及センターさんにも管理が間違ってるんじゃないかと言われた。

去年からダンプ台数、ダンプ一台あたり、このバンには200台入っているから200かけて、このバンには何トンはいっているなって、でタイヤショベルで鎮圧するとやっぱり、一つのパンに入る量がまるっきり違うのがわかり、今はほぼ正確な在庫管理できてる感じています。

多少お金はかかるが導入した方がより機械だなと思ってます。

質問：次はドローンの導入も考えていてドローンで1回当たりどのくらいの面積が撒けるのか何リットルぐらい積んでどのくらいの面積を撒けるのか教えてほしい。

○ 普及センター 市村掛長

回答：ドローンについては日進月歩で去年と今年では大きさもかなり変わっていて今すぐこうだとお答えできないので資料を集めて持って行きます。かなり効率よく撒けることは間違いありません。普及センターの立場として言えることは、農家の方が選ばれた物に対して、できる限り支援して、ある特定のもののためだけの活動というわけではないのでこれだけ御理解ください。

農家の方が選ばれた物についてそれをきちんと使えるようにとか、或いは選ぶときに、迷われときには、間違いのないような情報を提供やできる限りの対応を考えています。

○ 株式会社 阿寒TMRセンター 今村 政司

意見：斉藤課長の方からも話がでたのですけれども、うちも牧草畑は1000町あり、燃料費も高騰しているので、レポサク等GPSを使った機械技術を導入して効率化を図っていかないといけないし、すごく有効な方法だと思っている。

ドローンについてはデントコーン畑は300町ほどあるが。去年と一昨年1年ずつですけど。スモモン病の防除試験を行ったが昨年は雨が多く天候の影響やいろいろな条件であまり効果が見えない状況、農薬を撒いたところと撒かないところの差が見えなかった。

殺菌剤だが一回に5町程度の面積を散布しているようだった。

○ 普及センター 市村掛長から

試験では5町程度の面積を30分程度で散布しているようだった。

ドローンのタイプによってもたなり違いがある。

○ 合同会社 トイピリカ 松井 俊治

質問：ドローンは誰が使用して行ったのか

○ 普及センター 市村掛長から

回答：ホクレン経由で旭川の業者が来て行った。

○ 株式会社 阿寒TMRセンター 今村 政司

意見：200万くらい(機械費)と言うことなので、それぞれのJA等の導入してもらえれば色々な活用ができるのではと感じている。

○ 普及センター 市村係長から

意見：水を大量に積まなければならないので、それなりの機種は必要のなる。

除草剤等も少量散布できる薬剤もでてきているが、まだ除草剤は厳しいかなと思っている。

全体質疑

○ 株式会社 阿寒TMRセンター 今村 政司

質問：鹿の食害なんですけども、1000万ぐらいデントコーンで被害がある。今は電気柵を張るか金網柵を張るかの対策になるけれども、他に効果的な方法はないか？何か薬を撒けが入ってこないとか。そういった知見はないか。

○ 普及センター 宮崎所長

回答：鹿の食害については至る所で話題になるが、昨年のこの地域作り懇談会でデントコーンの周に違う物を植えると言う試験を報告したが、残念ながら食害は防止されなかった。

ハンターさんも減ってきているので鹿の頭数自体を減らすのも難しい。

最終的には電気柵や、金網柵など侵入を防止する対策しかないのが現状。

○ 合同会社 トイピリカ 松井 俊治

意見：鶴居村ではバンカーサイロ等で鶴の食害などもあるがそれについては網を張ったりして防いでいる。2、3羽のうちに追い払うようにしている。

鹿については必ずデントコーンにくるので、トイピリカで160町ほどデントコーンを栽培しているのですが、すべての圃場に電気柵を張っているが電気柵は下草刈りなどの管理に大きな労力が必要で自分たちでは管理しきれないのが現状。

今年、村の地域おこし協力隊委員に野生動物に詳しい人がいて、試験的に有料で圃場の管理をしてもらうことになった。内容は下草刈りや線の電圧のチェックなどを行って貰う。

そういったことが仕事として行えるようになる可能性になるのかなと考えている。

○ 有限会社 クレイランドTMRセンター 合田 徳三

意見：デントコーンは80町程はり全てに電気柵を張っている。

電気柵の管理はお金を掛けていて人件費に100万程度掛かっている。リードキャナリーグラスの生えているところは伸びるのも早く、担ってくれる人によって作業にムラがあることから人材に育成も難しい。

仕事とするにしても年間通した仕事にならないので、シルバー人材を使いながらやっていくしかないと考えている。

○ 合同会社 白糠F-SEED 林 稔幸

意見：うちもデントコーンは200haくらい。白糠は恒久柵がある地域とない地域があり恒久柵があるところでも破損がひどく、鹿がかなり侵入していて昨年はかなりの被害があった。

コストは掛かるが長い目で見ると恒久柵が良いのかなと考えているが、設置の間に合わない部分は電気柵で対応しているが下草刈りなどの管理は大変でお金を掛けても委託できる部分は委託したい。

効果的な張り方等、有効な設置事例、管理運用事例等あれば情報提供をお願いします。

○ 農務課長 高橋 良幸

情報提供：鳥獣被害防止対策事業では、電気柵等の資材費は10/10国費事業で対応できるので市町村とおして要望を上げてもらえれば資材の購入は可能。設置は自力施行になるが、委託する場合は1/2の補助となっている。R4年から電柵の下に貼る防草シートも資材の対象になっていてシートを貼ることによってある程度の管理作業は軽減されるので、管理の人件費等との兼ね合いもあるが補助事業を検討してもらいたい。

◎ 閉会挨拶

釧路農業改良普及センター所長 宮崎 隆章

皆さん多忙な中、本日は地域づくり懇談会に出席いただきましてありがとうございます。

本日は3つの事例しか紹介しませんでした。スマート農業の課題で皆さんに配布している表裏の資料は、令和4年度は15課題ありますが全ての課題でビジュアル版として整えています。

これは農家さんと一緒に活動しているということ合意形成図るために冊子にしています。

PR不足な部分もあり皆さんの目に触れる機会がなかったかもしれませんが、こう言った機会に情報共有できればと思っております。

本日の3課題についても直接的に人事評価の資料等ほしいという声も聞かれましたし、鹿の対策の話にもなりましたが、毎月参加している酪農対策推進協議会でも最後は鹿とクマの話になります。それだけ現場では切実な課題だということも本日も再認識したので、今後も地域の課題に向き合っていきたいと考えています。

また、日本農業新聞の安田さんからも地域振興という言葉を使っていただきましたが、男性、女性分け隔てなく地域振興に向けて一緒に取り組んでいきたいと考えていますので今後ともの協力をお願い申し上げて、今日のお礼に替えさせていただきます。本日はありがとうございました。

簡単ではあり

ますが、今日の開催に対してのお礼の挨拶
がございました。

にさせていただきたいと思います。本日はあり